

# 神奈川における 視覚障害者レクリエーションの展開 (1)

- 神奈川の現状とサポート体制 -

- 古畑英雄 (光友会藤沢障害者自立生活援助センター)
- 渡辺文治 (神奈川県総合リハビリテーションセンター七沢ライトホーム)
- 塩沢哲夫
- 末田靖則

キーワード: 視覚障害・スポーツ・ボランティア

## 1. はじめに

高齢の中途視覚障害者の増加にともない、教育や労働の問題に加え生活の質の向上、特に余暇の活用という視点が必要となってきた。しかし、中途視覚障害者の余暇時間は、渡辺、古畑の調査によると積極的な活用がなされていないのが現状のようである。今回は、このような視覚障害者の生活をより豊かなものにする余暇を充実させるために、晴眼者がどのように関わることが必要であるかを、神奈川におけるレクリエーション援助活動を通して、検討を加えたい。

表1 神奈川における視覚障害者レクの経過

## 2. 歴史的経過

表1に県内におけるスポーツを主とした視覚障害者の余暇活動の経過を示した。表2に各時期の特徴をまとめた。1960年代は県内においてはレクリエーション活動の開始期であり、点訳や録音活動を主とするボランティア団体が視覚障害者との交流を目的として始めた時期である。

国内外ではリハビリテーション施設の開設や身体障害者スポーツ大会の開始など、「リハビリ施設の創設期」である。71年から75年は、県内においては、各種スポーツ大会の開始やリハビリテーション施設の開設など「リハビリ施設の創設期」であり、国内外では障害者スポーツの専門施設が開設された「身障スポーツの創設期」である。76

	で き こ と
1959	神奈川県点訳赤十字奉仕団設立
1963	第1回神奈川県身体障害者スポーツ大会
1965	神奈川県点字図書館開設
1966	第1回交歓キャンプ実施 神奈川県録音赤十字奉仕団設立
1967	第1回交歓ハイキング実施
1968	第1回交歓クリスマス会実施
1969	県身体障害者スポーツ協会発足
1971	第1回交歓バレーボール大会
1972	第1回交歓体育祭
1973	第1回交歓ボーリング大会 七沢ライトホーム(視覚障害者更生施設)設立
1974	県ライトセンター設立(視覚障害者福祉施設)
1975	川崎市盲人図書館開設 藤沢市点字図書館開設
1976	視覚障害者レクリエーション研究会・神奈川設立 県「ともじび運動」開始(県民運動)
1978	県「身障スポーツ指導員講習会」開始
1979	「視覚障害者の体育とレクリエーション」発行
1980	「雷とたわむれ雷に遊んでもらう会」実施 藤沢市太陽の家体育館完成(身体障害者用体育館)
1981	県障害者行動計画に「レクリエーション」を明文化
1982	神奈川県視覚障害者レクリエーション部会設立(ボランティア組織) 第1回県盲人バレーボール大会開催 県協議「障害者レクリエーションガイドブック」発行
1984	県「障害福祉に関する長期行動計画」にてレクリエーションを明文化 第1回親子キャンプ実施
1985	第1回クロスカントリースキー実施 神奈川県視覚障害者スキー協会設立 相模原市けやき体育館完成(身体障害者用体育館)
1986	第1回盲人卓球けやき大会開始 第1回藤沢市長杯盲人卓球大会開始
1987	県「初級身体障害者スポーツリーダー養成」開始
1990	神奈川県視覚障害者球技審判協会設立
1991	第1回全国盲人バレーボール選手権開始(座間市)
1992	神奈川県盲人卓球協会設立
1993	神奈川県ライトセンター体育館完成(視覚障害者用)
1994	第1回日本・マレーシア交流盲人バレーボール大会開始(773-0777-8市)
1995	第1回日本・中国交流盲人バレーボール大会開催(天津市) 神奈川県フロアバレーボール協会設立

年から80年は、県内においては、身体障害者スポーツ指導者講習会や視覚障害者のレクリエーション活動の支援を主とするボランティア活動が開始されるなど「人材養成開始期」であり、国内外では「身体障害者スポーツの普及期」であった。81年から85年は、県内および国内外では国際障害者年の前半であり「レクの啓発期」の時期であった。86年から90年は、県内では各地でスポーツ大会やクラブ活動が活発となり「地域でのレク活動の開始期」に入り、国内外では、いわゆる身障スポーツから「幅広いレク種目の開発」の普及が始められた。91年からは、競技者が中心となって盲人卓球協会やフロアバレーボール協会など視覚障害者スポーツ団体の設立やアジアの国々にスポーツ種目を紹介するなど、県内においては「レク活動の普遍化」に取り組む活動が行われてきている。

### 3. 現状

表3に神奈川県内における1995年度の視覚障害者のスポーツ活動を示した。県内の視覚障害者を対象とした大会等を中心に示し、市町村レベルでの視覚障害者を対象としたものやクラブ等の大会は省略した。

年間を通して「陸上競技」「盲人卓球」「フロアバレーボール」「盲人卓球」「スキー」などが実施されているが、視覚障害者のレクリエーション、特にスポーツについて、まだ、その機会が十分に保障されているとはいえない。

### 4. レクリエーション活動をサポートする人材の養成

視覚障害者のレクリエーション活動の場面では、活動を指導する指導者とともに、安全

表2 視覚障害者レクの5年毎に見た変化

年 代	神奈川県下	国内 外
1960 ～70	レクリエーション活動の開始期	リハビリ施設の創設期
1971 ～75	リハビリ施設の創設期	身障スポーツの創設期
1976 ～80	レク人材養成の開始期	身障スポーツの普及期
1981 ～85	レクリエーションの啓発期	レクリエーションの啓発期
1986 ～90	地域でのスポーツ活動の開始期	幅広い活動種目の開発期
1991 ～95	レクリエーション活動の発展期	幅広い活動種目の発展期

表3 1995年度神奈川県における視覚障害者スポーツの主な大会（社団法人）

期 日	大 会 等	種 目
4.18	県身体障害者ボーリング大会	♂-リング
5.14	第34回県身体障害者スポーツ大会 第1部 陸上競技	陸上競技
6.10～11	第25回関東地区盲社会人野球大会兼国体予選	ソフト-球
6.11	県親善身障ボーリング大会	♂-リング
6.18	第34回県身体障害者スポーツ大会 第2部 盲人卓球	盲人卓球
7.02	県身体障害者ソフトボール大会	ソフト-球
7.10	県身体障害者富士登山	登山
7.25	第34回県身体障害者スポーツ大会 第3部 水泳	水泳
9.09～10	第2回全国フロアバレーボール大会	♂-レ-♂-球
10.15	第10回蕨沢市長杯争奪盲人卓球大会	盲人卓球
10.28～29	第31回全国身体障害者スポーツ大会	総合
11.05	第13回全国盲人マラソン小田原大会	マラソン
1.6～8	第17回ブライندスキー	スキー
1.27	ライトセンター盲人卓球大会	盲人卓球
1月2月	神奈川県視覚障害者スキー協会スキーツアー	スキー
3.03	第11回盲人卓球競技会「けやき大会」	盲人卓球
3.10	第9回湘南地区障害者卓球大会	盲人卓球

1995年度神奈川県における視覚障害者スポーツの主な大会（盲学校関係）

期 日	大 会 等	種 目
6.18	県内盲学校盲人野球大会	ソフト-球
7.21	関東地区盲学校野球大会	ソフト-球
9.03	関東地区盲学校水泳大会	水泳
10.01	県内盲学校盲人バレーボール大会	♂-レ-♂-球
10.22	関東地区盲学校バレーボール大会	♂-レ-♂-球
11.12	関東地区盲学校陸上競技大会	陸上競技
12.17	県内盲学校盲人卓球大会	盲人卓球

の確保、実施場所での誘導や変化する状況を適切に説明するなど暗眼者（目の見える人）の支援が必要である。神奈川県で行われている視覚障害者レク活動を支援するための人材養成は、身体障害者スポーツリーダー、レクリエーションボランティア養成である。表4は、1978年から1987年まで県が実施した「身体障害者スポーツ指導者養成」、及び1987年からの「初級身体障害者スポーツリーダー養成」の修了者数である。これによると、少なくとも視覚障害者の球技の講習を受けた者が合計で725名となっている。講座修了者で組織している「県身体障害者スポーツ協会」に所属している者は、1995年6月現在370名に達している。しかし、実際に活動を行っている指導者やリーダーは100名に満たないのが現状である。また、講座修了者に養成講習以後の活動の場を提供し、視覚障害者球技をより充実させるため1990年に、「神奈川県視覚障害球技審判協会」が設立され、組織的に視覚障害者スポーツ活動を援助することとなった。同協会の視覚障害者球技への審判員派遣延べ数は1993年度299名、1994年度319名となっている。しかし、同協会員は視覚障害者のスポーツという専門的な知識を必要とする活動のためか、視覚障害者を直接処遇する施設の職員や盲学校などの教員が多く、幅広い方が参加できるボランティア活動としては、まだ未成熟といえる。このように養成、修了者の組織化がある程度の成果を見てはいるものの、まだ十分な状況とはいえない。この要因としては、

つぎのことが挙げられる。

1) 視覚障害者レクリエーション援助のボランティアには、活動種目についての知識・技術の他に「視覚障害者」についての援助技術が必要であり、これを習得するためにある程度の期間を必要とする。

2) 視覚障害者球技は、競技

規則が一般種目と異なる点が多く、審判員ができる程度の知識・技術を習得するためには継続的な研修等が必要だがその機会が少ない。

3) レクリエーション種目の中でもスキーなどは、活動時期が一般の人々の時期と重なりボランティアが集まりにくい。

4) 神奈川県内では公的な障害者用体育館が2カ所、視覚障害者用体育館が1カ所設置されているが、実際にレクリエーション活動の指導をしたりやコーディネートしたりする職員が配置されていない。

5) 視覚障害者レクリエーション活動を支援している障害者団体（種目団体を含む）・行政（県・指定都市・市町村）・ボランティアの相互の情報提供や協議が円滑に行われているとはいえない。

## 5. おわりに

神奈川県における視覚障害者のスポーツ活動を通し、そのサポート体制の現状を見てきたが、今後検討されるべき課題として次のものが挙げられる。

1) サポートする側の人々の「活動種目」や「視覚障害者援助」の技術や知識を高める

表4 養成状況（県身体障害者スポーツ指導者養成）

年度	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	10年間
人数	14	9	13	20	12	11	14	16	12	2	123

（県身体障害者初級スポーツリーダー養成）

年度	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	8年間
人数	50	68	76	55	107	96	86	64	602

ため、中高度の指導者・リーダー養成プログラムが必要である。

2) コーディネイト機能を充実させ、初級指導者・リーダーの活動の機会を増やす必要がある。

3) 当該種目団体とともに、視覚障害者レクリエーションの啓発活動をおこない、幅広いボランティアを募ることが必要である。

4) サポートする側の人々の技術や知識をより活用するため、障害者スポーツセンターなどの情報提供機能やコーディネート機能が必要である。

5) 視覚障害者レクリエーションをサポートする障害者団体・行政・ボランティアの調整機関を常設する必要がある。

1998年、神奈川県下で「全国身体障害者スポーツ大会」が開催される。また、1993年より「アジア太平洋障害者の十年」が展開されている。われわれの活動もこれらの活動と呼応しながらさらに実践を重ねていきたい。

#### 《参考文献》

- 古畑英雄 橋谷俊胤 牛島秀保 地域での視覚障害者スポーツの普及－第1回神奈川県盲人バレーボール大会－ 日本身体障害者スポーツ研究会紀要第5号 1982
- 増田良一 古畑英雄 橋谷俊胤 地域での視覚障害者スポーツの普及－在宅障害者のスキー－ 日本身体障害者スポーツ研究会紀要第5号 1982
- 古畑英雄 渡辺文治 市川文昭 七沢ライトホーム訓練終了者の外出 生活時間調査課ら第9回視覚障害歩行研究会論文集 1985
- 渡辺文治 古畑英雄 市川文昭 中途視覚障害者の余暇時間 生活時間調査の結果から 日本レクリエーション学会 レクリエーション研究第14号 1985
- 古畑英雄 マレーシア視覚障害者福祉協会との交流 点字ジャーナル1月号 1991
- 古畑英雄 渡辺文治 末田靖則 増田良一 間嶋和子 神奈川における視覚障害者のレクリエーション(1) 第1回視覚障害者リハビリテーション研究発表大会紀要 1992
- 渡辺文治 増田良一 末田靖則 古畑英雄 間嶋和子 神奈川における視覚障害者のレクリエーション(3) レクリエーションの種目とサポートする人間について 第2回視覚障害者リハビリテーション研究発表大会紀要 1993
- 丸山哲夫 渡辺文治 末田靖則 間嶋和子 古畑英雄 増田良一 神奈川における視覚障害者のレクリエーション 実態調査 第31回神奈川県社会福祉研究発表大会 1993
- 古畑英雄 アジアの視覚障害者 I-マレーシア- 視覚障害 No125 1993
- 古畑英雄 障害者の健康・体づくりのプログラムの具体化－地域のレク活動－ 第9回障害者ヘルスフィットネス国際会議資料 1993
- 古畑英雄 渡辺文治 神奈川における視覚障害者スポーツの普及 第32回神奈川県社会福祉研究発表大会 1994
- 古畑英雄 五十嵐紀子 マレーシア視覚障害者福祉協会との交流活動 第33回神奈川県社会福祉研究発表大会 1995